

教えて
ドクター

関節に違和感を覚えたら すぐにリウマチ専門医に相談を

海老名総合病院
(海老名市河原口)
人工関節・リウマチ科 医長
草場敦先生



昭和大学医学部卒業後、同大学藤が丘病院整形外科入局。日本リウマチ財団フェローとしてベルリン大学ノイケルン病院、ハーバード大学・マサチューセッツ総合病院を経て2002年より現職。医学博士、日本リウマチ学会評議員・指導医、日本整形外科学会認定医

取材協力／田辺三菱製薬

難病、寝たきり…というイメージがある関節リウマチ。「かつては不治の病と恐れられていましたが、今世紀に入り、薬が飛躍的に進歩したことで『治療できる』時代になりました」と話すのは、リウマチ専門医の草場敦先生。そんな最新のリウマチ治療について、私たちが知っておきたいポイントを解説してもらいました。

**放置すれば進行する一方…初期症状を見逃さず
なるべく早い段階で治療を始めることが大切**

関節リウマチは女性に多い病気です。好発年齢は40～60代ですが、20～30代にも少なからず見られ、発症年齢が若いほど、進行が速い傾向にあります。関節リウマチは「免疫の暴走」による疾患です。人間に備わっている免疫という仕組みは、本来、自分の身体を守るために外敵を攻撃するもので、

す。しかし、何らかの原因でもらい、一刻も早く治療を始めます。初期症状で圧倒的に多いのは、朝の手のこわばり(指がはねばった)と動かしにくい状態です。症状が左右対称に出るのも特徴の一つであり、疲れやだるさを感じる人もいます。もしや…と感じたら、なるべく早くリウマチの専門医に相談しましょう。



**強い薬を的確に使うことで
寛解に向けた攻めの治療が可能**

現在の治療は薬物療法ですが、最近はその情報も中心です。早期に的確蓄積され対策がとりやすくなるように進んでいます。私たちが、中には卒業できるまで、活動的な日常生活を送れるようになる患者さんをたくさん見ました。関節リウマチが不治の病であった時代を知っているだけに、今の時代に立ち合えることは、医師として幸いです。

一般的にはまずメトトレキサートという抗リウマチ薬を使い、効果が不十分であれば、より効果の強い生物学的製剤などを併用します。強い薬を最初の段階で使うことで、寛解に向けた攻めの治療ができます。効果が強い薬は副作用もありません。

ですが、最近はその情報も蓄積され対策がとりやすくなるように進んでいます。私たちが、中には卒業できるまで、活動的な日常生活を送れるようになる患者さんをたくさん見ました。関節リウマチが不治の病であった時代を知っているだけに、今の時代に立ち合えることは、医師として幸いです。

一般的にはまずメトトレキサートという抗リウマチ薬を使い、効果が不十分であれば、より効果の強い生物学的製剤などを併用します。強い薬を最初の段階で使うことで、寛解に向けた攻めの治療ができます。効果が強い薬は副作用もありません。